

「元氣和歌山」尾花市長の所信

尾花市長の所信表明は、選挙で訴えてきた産業を元気にする、街を元気にする、人を元気にするといふ三つの約束を実現し、「元氣和歌山市」を創っていくといふことで、それぞれの約束をあげました。目新しいのは、産業振興について基本条例の制定に取り組むという点、小・中堂にエアカンパニ洋式トイレなどを計

画的に設置するといふ点です。どうかなと思つたのは、伏虎中の跡地をまちなか再生の「起爆剤」にしたいといふこと。「起爆剤」といふと、リゾート博、開空開港、地下駐車場建設などに使われましたが、いずれも不発あるいは頓挫した記憶が頭をむすめました。山口地区からたかくさんの傍聴者がありましたが、遠

畑の産廃建設計画に、まったく触れなかった点も、どうかなと思つました。この

なせ国・職員を副市長にする

尾花市長は、副市長の選任について、「これまで2人(市・国)から1人(国)にした」と提案したのは、荒竹宏文氏(43歳)で、自治省採用後すぐに高知県入2年、国に戻り4年後に岩手県で3年、国で2年して宮城県で3年、国で1年戻

所信について、9日議会の代表質問で私、ひめだは中身を聞きたいと思つています。

り福島県で4年、昨年度は地方公務員団体協議会幹事、企画部企画課長だったといふ、多彩な経歴の方です。副市長の選任について、日本共産党の森下市議員の質疑と尾花市長の答弁の要旨は次のとおりです。

- 質疑一問(副市長を選任する基本的な考え方、
- ②今回の選任の目的、基準
- ③なせ国の職員なのか。

(答弁)副市長には、私の意向を踏まえ、補佐役として政策及び企画をつかさどることができ、私を信頼してどこまでも支えてくれる人物がふさわしいと考えている。今、和歌山市にとって大きなチャンスが到来していることを喜んでいる。それは、国の成長戦略が地方

活性化に力点を置き「トップ」から地方が脱却できる絶好の機会であると考えている。このチャンスを見逃さないようするためには、副市長は、豊富な政策情報や経験を市政に生かすことができ、国との連携を密にしネットワークの強化を図ることができる人物が必要であると考える地方行政の経験を持つた国の職員を選任した。森下市議員二問で、①国の職員を選ぶことについて、市の自主性、主体性において、独自に入を育めるという点でどうなのか。

②任期からみた継続性の問題、国の影響を色濃く受けざるを得ないといふ点など、地方自治の本旨に照らしてどう考えるかと質問。

二問の答弁は紙面の都合で省略。本会議は、和歌山市議会ホームルーム番組で継々と録画を見ることかと思いますが、

「こどもは」日本共産党

危険な年金の株投資拡大 安倍自公政権が、公的年金積立金の株投資の拡大に向けた検討を加速しています。内閣改造では年金積立金を担当する厚生労働相に、根っからの

株投資拡大論者である塩崎恭久・元官房長官を任命し、前のめり姿勢を際立たせています。

年金積立金は、約130兆円にのぼり、厚生相が所管する年金積立金管理運用独立行政法人が管理・運用しています。積立金を債券

厚労省はこれまで「安定運用が基本」としてかりりスクが比較的低いとされる国内債券にも割合をあと残りも国内外の株式、外国債券にあてています。安倍政権は、国内債券での運用を減らし、リスクの高い株や不動産投資などの運用比率を高めようといふのです。

積立金を債券から株などに運用し得た収入を年金給付に活用しますが、

この間、積立金の運用は、株や不動産投資など、リスクの高い運用にシフトしている。これは、国の成長戦略が地方